

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年2月16日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4673500098
法人名	医療法人 小山クリニック
事業所名	グループホーム れんげそう 1ユニット
所在地	鹿児島県南さつま市金峰町尾下390番地 (電話) 0993-77-2646
自己評価作成日	平成 30年 12月 26日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	-----------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成31年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

霊峰金峰山のすそ野で、目の前は田んぼが広がりどかな風景に囲まれ、隣の小学校から毎日にぎやかな子供たちの元気な声が聞こえてきます。住み慣れた地域で暮らし続けたい思いに少しでも添えるよう、併設された小規模多機能ホームと共に気軽に声をかけていただき、安心して利用できる施設作りに努めています。自力で色々な事が出来る方から、寝たきりの方まで多様な方が利用されています。また利用者の重度化に伴い医療的なニーズの高い方が増えていますが、24時間対応できるクリニックと共に多くの看取りが実践されています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念と接遇スローガンを事務所やリビングの目につきやすい場所に掲示し、毎月の職員会議で唱和している。また、年度目標に「体調急変時の対応や言葉遣いなど、マナー研修によりスキルアップを図る」を掲げ、利用者に対して不適切な言葉遣いや接し方を把握した場合は、その場で注意を促したり、職員会議で話し合う等、再発防止のため繰り返し確認している。

月2回母体医療機関による訪問診療と、週2回訪問看護による健康管理が受けられるほか、利用者一人ひとりの状態を毎日、主治医にファックスで伝えるなど、密に連携を図ることが出来ているため、これまでに看取り介護を何度も経験してきている。看取り介護を行うにあたり、同意書を取り交わしているが、本人と家族の思いの変化を十分に汲み取り、最大限のケアができるよう繰り返し同意書を取り交わしている。

利用者の思いや意向を、日々の会話や行動、ふとした時に見せる表情等から汲み取り支援につなげている。入居後も家族との関係が良好に保てるよう、月1回程度は家族に面会に来てもらえるよう促している。また、家族会を兼ねて敬老会を実施したり、毎月作成しているホーム便りを送付することで、感想や意見をもらう機会につなげるなど、家族の心情に配慮し、意見や要望を出してもらえるよう努め、運営に反映させている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	自立と尊厳をテーマに、利用者が暮らしやすい生活の提供を心がけ、理念の共有に努めて実践につなげていきたい。	理念と接遇スローガンを事務所とフロアに掲示し、毎月の職員会議で唱和すると共に、理念が現状に即しているかも確認している。スローガンに本人本位の暮らしを掲げ、職員間で共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	病院や地域包括センター等からの問い合わせへの対応や、小規模多機能ホームとの日常的な交流などが行われている。	小学校の運動会に出かけたり、中学生の職場体験の受け入れ、高校生の実習の受け入れのほか、太鼓踊りの見学や日常的に散歩に出かけた際に地域住民と挨拶や会話を交わす等交流している。また、食材は地元産を購入することで交流を深めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	小学校の体験学習や学童保育児との定期的な交流が行われ、高校生の実習、中高生の職場体験受け入れなどが行われている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回の開催が行われ地域行事などの情報が外出等への活動に活かされているが、内容がマンネリ化して参加スタッフも多くないので内容周知などの工夫を行っていきたい。	利用者や家族、民生委員、包括支援センターの職員等が参加し、入居者状況や活動報告、外部評価の報告等を行っている。参加者からストレッチャーの必要性について助言をもらい、話し合いの上購入につなげるなど、参加者の意見をケアの向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認知症施策推進会議、サービス提供事業所連絡会、地域ケア推進会議、多機種連携研修会への参加など、市町村と密に連携を図っている。	行政職員とは、要介護認定の更新や運営推進会議、認知症サポーター講座や地区のケア会議等で顔を合わせるほか、南さつま市サービス提供事業者連絡会では、事業所開設を認可する委員も務めており、日常的に行政との関係は深い。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居間もない利用者が多く無断外出による事故防止のため玄関の時間施錠を行っているが、身体拘束廃止の研修を行い、認知症の方への悪影響を正しく理解して拘束全廃に取り組んでいる。。	無断で外出してしまう可能性のある利用者がいるため、日常的に見守りを徹底させており、SOSネットワークと契約する家族もいる。内部研修に加え、グループホーム協議会主催の研修に参加するなど、拘束のない暮らしの支援に努めている。また、言葉による拘束については、繰り返し話し合う機会を設けることで、職員の意識改革を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間計画で虐待防止の勉強会を継続、言葉の暴力も含めて虐待と捉えられるような事が起きないように注意を払っている。。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については全体会議の場で学ぶ機会を設け、家族にも制度の理解を求めて、必要な場合はすぐに活用できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>施設申し込み時や入居前から施設の特徴を説明、持ち込み品や馴染みの品物など十分な説明を行い理解して契約できるよう努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居間もない家族も多く意見を聞く機会もまだ多くないが、日頃の何気ない行動やしぐさから情報収集を行い、面会時を利用して意見収集を行い運営に反映させたい。</p>	<p>日常の言動から利用者の意見や思いを汲み取ると共に、家族からは面会時に意見を尋ねるようにしている。家族とは日頃から連絡を密に取り、支払いやおむつを持ってきてもらう等、月に1回は訪問してもらう機会を作り面談している。「れんげそう便り」を毎月送付することで感想をもらい、希望があれば写真をプレゼントすることもある。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定例会や日頃の色々な場面で聞く機会を設けて、働きやすい職場作りに努力している。</p>	<p>毎月行う職員会議や申し送り時のほか、随時職員の意見に耳を傾け、特に勤務表作成時には、可能な限り、休みの希望が叶えられるよう調整している。また、異動については、利用者に影響のないよう考慮し対応したいと考えている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の体調管理や家族介護、有給取得など一様に解決できない事案も多いが、やりがいをもって働けるよう職場環境の整備を行っていきたい</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各種の研修会への参加を計画しているが、スタッフ不足もあり希望の研修を受ける機会が少なくなっている。ステップアップに必要な研修など参加に向けて努めたい。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地区協議会主催の研修会や多種事業者交流会参加を通じて、その内容を施設サービス向上に反映させられるよう取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に不安なことや困り事、大事にしていることなど情報集して、新しい環境で不安に思っている気持ちを理解して、早くその人らしい生活が送れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申し込み時から困りごとや悩みなどの情報収集を行い、生活の在り方や終末期の考え方などをお聞きして、良好な信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時、利用者家族からの情報収集を密に行い、今困っている事柄などから必要としているサービスを一緒に考え、適正なサービスの支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや出来る事出来ないことなど情報を収集し、同じ空間で生活を共にする仲間として、一人ひとり役割を持ってお互いに支えあえる関係づくりができるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	基本理念の中に家族を一番のなじみの関係と位置づけ、今までの家族環境をできるだけ変えずに、一緒に生活を支えていくパートナーとして目指しているようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活履歴や大事に思っている事、得意な事などの情報から家族と共に本人の思いを知り、その関係性を続けられるように努めている。	入居前の馴染みの関係を聞き取り、入居後も関係が途切れないよう、電話や手紙はもとより、お墓参り等個別に希望する外出先に、家族と職員が協力し合い出かけている。また、自宅に帰りたい意思表示があれば、家族と話し合い、叶えられるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ地域同士の利用者など同じ話題で会話を楽しんで頂けるよう支援している。また精神的に不安定な時でも、一人で閉じこもる事のないよう支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	短い期間に多くの見送りがあったり、入院契約終了になる事が続いたが、その後も他の家族の介護相談を受けたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの詳しい意向確認は難しいケースが多いが、日頃の動きや表情、家族の重いなどから意向の把握に努めている。	思いを言葉にして表すことが難しい場合は、日々、接する中で見せる表情や仕草も考慮し、職員間で情報共有を図り、本人本位のケアにつなげている。スローガンにある「ダメを言わないサービス」の提供に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前の生活情報を本人家族、施設関係者から収集したり、自宅訪問して実際の暮らしぶりを観察して、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各個人別の生活記録や体調など詳しく記録して、その日その日で違う情報を全員で共有して、現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者ごとに担当スタッフがアセスメントを作成、それぞれの意見やアイデアをプランに反映して現状にあった介護計画作りに努めている。	本人や家族の意向を基に、担当職員によるアセスメント情報や主治医の意見、3ヵ月毎に実施しているモニタリングも考慮し、ケアプランに反映させている。利用者や家族の意向に変化が生じた場合や、状態に変化がみられた場合等、随時話し合い、状況に即したケアプランに作り直し、担当者会議を経て関係者に交付している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各自の生活記録や実績記録、健康チェック表を参考に、申し送り等で情報を共有し、その都度話し合いながら実践に沿った介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変わっていく状況を把握しながら、本人家族の思いに沿った生活が送れるよう、何度も話し合いを重ねて実践に活かしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住み慣れた地域で暮らし続けたい思いを家族と一緒に共有し、本人の持てる力の情報を収集して、安全で心穏やかな生活ができるよう援助している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調や病気により日々変化する状況をかかりつけ医と毎日情報共有し、急変時や終末期までの希望など、本人や家族の希望がかなえられるよう支援している。	月2回、母体医療機関による訪問診療があり、訪問看護も週2回ある。また、母体医療機関とは毎日ファックスで状態を確認し合うなど密に連絡を取り合っている。他科受診等については、家族と職員が協力し合い支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師へ個々の体調や精神状態の情報を毎日直接伝えて、適切な体調管理や治療、早期受診が受けられるよう援助を行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時の紹介状の手配、病院選択など早めに案内して、入院時は生活情報の提供など情報交換を行っている。また早期退院に結び付くよう頻回な面会や家族への支援も併せて行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に事業所において重度化した場合終末期まで対応している事を説明している。また状況の変化に合わせて意向確認書や同意書を作成して、家族と共にその人らしい看取りが行えるように取り組んでいる。</p>	<p>入居時に「事前意思確認書」にて確認し、状態に変化がみられた場合に「看取り介護についての同意書」を交わしている。同意書は利用者や家族の思いの変化に合わせて、繰り返し確認している。これまでに何度も看取りを行っており、家族や職員、医師や看護師等関係者全員がチームとなり、利用者の望む最期を責任を持って支援している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>体調急変時や怪我、ウイルス対策などに対する勉強会や訓練を繰り返し行っているが、夜間の対応など不安な場面も多いので繰り返し研修を行いたい。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>隣接する小規模多機能施設と共同で訓練を行っているが、特に夜間への対応が不足している。地域住民への協力もお願いしながら訓練を行っていきたい。</p>	<p>年2回、消防署立ち会いの防災訓練を隣接する小規模多機能ホームと合同で実施している。過去に浸水被害に遭っていることから、緊急避難場所を母体医療機関に定め、万一来に備えている。備蓄に関しては、飲料水やレトルト食品等、約3日分を備え、備品も電池やランタン等準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に敬いの気持ちで接する事が出来るよう研修を行っているが、馴れ合いになりプライバシーへの配慮に欠ける言葉かけも見られるので、人生の先輩であるとの思いを忘れずに接していきたい。	声のかけ方一つで、受け取る側である利用者の気持ちが変わるため、馴れ合いになり過ぎたり、威圧的にならないよう気を配り接している。また、個人情報取り扱いについてや、尊厳を守るケアについての研修を行うなど、プライバシーの確保についても確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で出来ること、やりたいことを把握して自己決定に努めているが、支援材料が少なくその思いに至っていない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調に大きく左右されてしまうが、食事や休憩時間など希望に沿ったその人らしいペースで生活が送れるような援助に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	あるだけ着込んでしまう方や偏った服装になる方など、様々な方に合わせて、それなりの思いに合わせた装いが出来るよう援助している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じて皮むきなどの下準備や片付けの手伝いに参加したり、寝たきり状態の方や嚥下障害のある方でも、最後まで口から食べる楽しみが味わえるよう工夫している。	調理の下ごしらえや後片付け等、利用者と職員と一緒に、同じメニューの食事を会話を楽しみながら食べている。誕生会には、手作りケーキを用意し、クリスマス会や敬老会等の行事には特別食を提供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の嚥下状態に合わせて、食事形態を調整し、水分もトロミを付けて誤嚥防止を図っている。また医療ニーズの高い方など体重や水分制限などの指示にも対応している。。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔内の状態に合わせてそれぞれ口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。また看取り期で動けない方などはガーゼ清拭などで対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	それぞれの排泄能力やそのパターンに合わせて、場所や介助方法、排泄用品を選んだり、時間誘導を行って、出来るだけトイレへの自然排泄を促している。	おむつやリハビリパンツを使用する利用者も、できるだけトイレで排泄できるようトイレ誘導を行っている。ポータブルトイレは夜間のみの使用とし、日中は丁寧に掃除と消毒を行い、週1回は屋外に出し干している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	緩下剤に頼りすぎないように、水分摂取量や排泄状況を把握し、それぞれに合わせて、きな粉牛乳や野菜ジュース等を活用して便秘解消に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴自体を嫌がったりその日の体調で困難な事もあるが、ゆっくり湯船につかる楽しみを理解し、体調不良時は足浴や清拭などを行って気持ち良く過ごせるようにしている。	清潔保持のため週3回入浴日とし、体調不良時は、清拭や足浴等適宜実施している。入浴をためらう利用者には、声をかける職員を変えたり、タイミングを見計らう等しながら入浴につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安定した睡眠が難しい方もいるが、昼間にレクリエーションや散歩など体を動かす機会を設け、夜間は自然なリズムで睡眠できるよう支援していきたい。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者別の薬剤情報をファイルして、疑問な時はいつでも薬剤師に確認できる環境にある。時に服薬ミスが起きているが、声出し確認など再発防止に取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションやゲームなど日々取り組んでいるが、単調な内容になっている。言葉遊びやリズム体操など取り入れて支援内容を増やしていきたい。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅へ帰りたい方や不意に出かけてしまう方など、重要事故につながりがちな方が多いが、事故発生時には公的支援を利用したり、隣接施設や家族と協力しながら外に出かける楽しみが得られるような環境作りに努めたい。	初詣や花見、運動会見学や太鼓踊り見学等、地域で行われる季節行事に参加できるよう年間行事計画を立て出かけている。また、個別に希望する外出先については、家族の協力ももらい出かけるほか、日常的にドライブに出かけるなど、気分転換を図れるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	施設の中でお金を使う機会は少ないが、今までの生活環境からお金への思いを理解し、それぞれの金銭的な価値観など大事にしていきたい。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	利用者ごとの電話は個別にお話しできるようにしている。また家族の協力のもと、画像を見ながら遠方の家族との会話も楽しんでいただいている。		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	共用空間を活用して季節ごとの行事や活動状況を廊下やホールに掲示したり、一緒に作った作品を展示して、楽しく過ごせる環境作りに努めている。	リビングと廊下に天窓があるため、事業所全体がとても明るく、利用者や職員が作った季節の作品や行事毎の写真が飾られ、日々、楽しく過ごしている様子が伺える。また、トイレには多数手すりが取り付けられているため、自立した動作につながられている。中庭に菜園があるほか、畑もあり、季節の野菜作りを楽しめ、食材に利用している。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	その時の気分に合わせて、気兼ねなく過ごせるようイスやソファを準備して、それぞれの思いに添える援助が出来るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や写真など飾り、住み慣れた自宅と同じような環境環境に整えている。また場所の認識が苦手な方などには、簡潔に理解できる目印を付けるなど環境作りに努めている。	エアコンや介護用ベッド、タンス、棚が備え付けられ、写真やぬいぐるみ等、自宅から持ち込まれた馴染みの品が飾られている。掃除は毎朝、職員が行っており、感染症対策のための消毒も徹底している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂など、分かりやすい言葉で、それぞれ目線に合わせた張り紙をしたり、また居室入り口に表札や写真を飾って、目印にして暮らしやすい環境作りに努めているが、理解できない方にはその都度案内している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない